

日本物理学会 2020 年秋季大会

物理学史インフォーマルミーティング議事録

領域運営委員 有賀暢迪 (国立科学博物館)

I. 報告事項

1. 秋季大会開催報告 (有賀)

大会 2 日目 (9/9) 午後に計 10 件の一般講演が行われた。

初めてのオンライン開催であったが大きなトラブルはなく終了した。

座長……前半：小島智恵子 (日大商)、後半：小長谷大介 (龍谷大経営)。

参加者は最大 38 名で、常時 25 名は超えていたと思われる。

2. 若手奨励賞の報告 (興治文子領域代表)

今年度は領域 13 から 2 名を推薦できることになっていた。

8/31 を締切として募集したが、応募はなかった。

告知が遅れてしまったことをお詫びする。

3. 『日本物理学会誌』編集委員会からの報告 (稲葉肇委員)

8 月号：小島「少数派物理学者としてのド・ブロイ」掲載。

*いまのデザインになってからでは、「歴史の小径」からはじめての表紙写真採用

9 月号：塚本「運動の第 2 法則はいつから運動方程式となったか？」掲載。

*写真が口絵に採用

10 月号にも 1 本掲載予定のほか、執筆・審査中の記事が 5 本ある。

書きたい記事のある方は連絡してほしい。

4. 「新著紹介」編集小委員会からの報告 (岡本拓司委員；有賀代読)

4 月号：上村『戦後物理をたどる』(安藤執筆) 掲載

取り上げるべき書籍があれば知らせてほしい。

5. 物理学史資料委員会からの報告 (小長谷大介委員長)

第 75 回年次大会 (名古屋大学) で企画したシンポジウムは現地開催中止。

あわせて名古屋大学博物館で企画した展示は延期となっている。

委員会ホームページに資料情報や『年表』を掲載している。

「物理遺産」の可能性を議論した。永平幸雄委員による会誌 1 月号記事を参照。

2027 年が東京数学会社創立 150 周年に当たるため、今後それに向けて議論する。

*以上の報告に対して小沼通二会員より、『年表』の 1927~45 年の部分では学会の活動にかんする記述が極めて少ないとの指摘があった。

II. 協議事項

1. 次々期の領域運営委員候補者について

領域運営委員の仕事内容や、これまでの委員の選出状況について共有した。

次々期（2021年4月～22年3月）の候補者を、後日MLで提案する。

その際には、過去の領域代表・副代表についても考慮する。

《参考1：領域運営委員にお願いする仕事》

「運営委員連絡用ページ」<http://div.jps.or.jp/iin/> のC.を参照

《参考2：過去の委員の一覧》

領域13ウェブサイト <http://www.r13.div.jps.or.jp/index.html> より、

ページ左側 TOPICS の「代表・運営委員」→「過去の役員・委員」を参照

2. 領域13（物理学史）推薦の代議員について

高岩義信会員が来年3月で2期4年務めることになる。

前項の領域運営委員とあわせて後任の候補を検討し、MLで提案する。

3. HP およびメーリングリスト（ML）の管理者について

ML：高岩会員が引き続きオーナーを務め、近いうちに別の管理者を立てる。

HP（物理学史）：高岩会員から有賀に交代し、次回年次大会で再度協議する。

HP（領域全体）：領域代表・副代表で管理をおこなう。

4. 次回年次大会の募集要項案について

一般講演申し込み時の「キーワード」として、現在は以下のようになっている。

修正提案があれば有賀に連絡する。

（物理学史） （history of physics）

（15）哲学・思想 （15）philosophy and ideas

（16）学説史 （16）internal history of physics

（17）社会史 （17）social history of physics

（18）資料問題 （18）historical documents and instruments

（19）その他 （19）others

5. 次回年次大会での企画について

第76回年次大会は2021年3月12～15日に東京大学駒場キャンパスで開催予定

（現時点ではオンライン開催の予定なし）。

シンポジウム等の企画提案があれば有賀に連絡する。

なお、物理学史資料委員会では特に企画を計画していない。